

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
「国内の病原体サーベイランスに資する機能的なラボネットワークの強化に関する研究」班
分担研究報告書

地方衛生研究所検査室の機能・病原体マニュアル編集

研究分担者 調 恒明 山口県環境保健センター
研究協力者 四宮博人 愛媛県立衛生環境研究所

研究要旨 平成28年4月1日に施行された改正感染症法により、感染症法に基づく検査を都道府県知事が実施することとなり、地方衛生研究所はその検査の精度を保証することが求められるようになった。そのため、地方衛生研究所が実施している感染症の検査について標準作業書等の作成が必要となっているが、これらは病原体検出マニュアルを元に作成されている。法改正後、重要となったマニュアル改訂を促すことを目的として地方衛生研究所が、標準作業書が必要と考える感染症についてリストアップし、マニュアルの有無、改訂年について調査した。

A．研究目的

地方衛生研究所が実施している感染症の検査に必要な標準作業書等の作成は、国立感染症研究所のホームページに掲載されている病原体検出マニュアルを元に作成されている。法改正後、重要となったマニュアル改訂を促すことを目的として地方衛生研究所が、標準作業書が必要と考える感染症についてアンケート調査を実施し、改訂年月日のリストを作成した。

B．研究方法

1. 国立感染症研究所のホームページに掲載されている病原体検出マニュアルについて、改訂年月日をリスト化し、ホームページ上に掲載した。
2. 感染症法に規定されている感染症のうち、地方衛生研究所において検査を実施する可能性が高く、標準作業書が必要と思われるものについて調査を実施した。

C．研究結果

1. 標準作業書が必要であるが病原体検出マニュアルがない感染症

地方衛生研究所において検査を実施しており、もしくは実施する可能性が高く、かつ未だに病原体検出マニュアルが作成されていない感染症は以下の通りである。これまでに、地方衛生研究所は、マニュアルの作成を国立感染症研究所に対して要望してきたが、未だに作成されていないものがある。平成28年4月の感染症法改正において標準作業書の作成が義務化されたことから、これを支援するために病原体検出マニュアルを常に最新のものにしておくことが重要である。マニュアルが作成されていない感染症は以下の通りであり早急な作成が望まれる。

二類感染症：

鳥インフルエンザ（H7N9）

中東呼吸器症候群（MERS）

四類感染症：

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

オウム病

Q 熱

ツツガムシ病

日本紅斑熱

E 型肝炎

A 型肝炎

五類感染症：

急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）

侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症

五類定点把握疾患：

RS ウイルス感染症

感染性胃腸炎（ロタウイルス感染症は掲載済み）

伝染性紅斑

クラミジア肺炎

2. 改訂年

改訂の期日については以下の通りであり、2012 年以來改訂されていないものについては改訂を検討する必要がある。

2018 年 2 月：無菌性髄膜炎、ヘルパンギーナ、手足口病

2017 年：風疹、麻疹、腸管出血性大腸菌感染症、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱

2016 年：ジカウイルス感染症、ヘンドラウイルス感染症、ニパウイルス感染症、薬剤

耐性緑膿菌感染症、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2015 年：コレラ、突発性発しん、野兔病、先天性風しん症候群、百日咳、流行性耳下腺炎

2014 年：インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）、デング熱、破傷風、感染性胃腸炎（ロタウイルス）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

2013 年：淋菌感染症、日本脳炎、コクシジオイデス症、チクングニア熱

2012 年：尖圭コンジローマ、ハンタウイルス肺症候群、ブルセラ症、アメーバ赤痢、マラリア、ジアルジア症、クリプトスポリジウム症、ライム病、エキノкокクス症、細菌性赤痢、侵襲性髄膜炎菌感染症、後天性免疫不全症候群、パラチフス、腸チフス、ペスト、狂犬病、鳥インフルエンザ（H5N1）、マールブルグ病、性器ヘルペスウイルス感染症、ポツリヌス症、炭疽、急性灰白髄炎、回帰熱、エボラ出血熱

2011 年：マイコプラズマ肺炎、細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を除く）、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、鼻疽、レプトスピラ症、レジオネラ症、水痘、水痘（入院例）、類鼻疽、B ウイルス病

2004 年：重症急性呼吸器症候群（SARS-CoV に限る）

F . 健康危険情報

該当なし

G . 研究発表

論文発表

1. Nagasawa K, Matsushima Y, Motoya T, Mizukoshi F, Ueki Y, Sakon N, Murakami K, Shimizu T, Okabe N, Nagata N, Shirabe K, Shinomiya H, Suzuki W, Kuroda M, Sekizuka T, Suzuki Y, Ryo A, Fujita K, Oishi K, Katayama K, Kimura H. Genetic Analysis of Human Norovirus Strains in Japan in 2016–2017, *Frontiers in Microbiology*, Jan, 2018

2 . Nagasawa K, Matsushima Y, Motoya T, Mizukoshi F, Ueki Y, Sakon N, Murakami K, Shimizu T, Okabe N, Nagata N, Shirabe K, Shinomiya H, Suzuki W, Kuroda M, Sekizuka T, Ryo A, Fujita K, Oishi K, Katayama K, Kimura H. Phylogeny and Immunoreactivity of Norovirus GII.P16-GII.2, Japan, Winter 2016-17. *Emerg Infect Dis.* 2018 Jan;24(1):144-148.

3. Fujimoto Y, Hasegawa S, Matsushige T, Wakiguchi H, Nakamura T, Hasegawa H, Nakajima N, Ainai A, Oga A, Itoh H, Shirabe K, Toda S, Atsuta R, Morishima T, Ohga S. Pulmonary inflammation and cytokine dynamics of bronchoalveolar lavage fluid from a mouse model of bronchial asthma during A(H1N1)pdm09 influenza infection. *Sci Rep.* 2017 Aug 22;7(1):9128.

4 . 調 恒明、地方衛生研究所の連携事業による健康危機管理に必要な感染症・食中毒事例の検査精度の向上及び疫学情報解析機能の強化、公衆衛生情報、47 , 10–12 , 2018

5 . 調 恒明、地域保健法と地方衛生研究所、公衆衛生、82 , 238–243 , 2018

学会発表

なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1 . 特許取得

該当なし

2 . 実用新案登録

該当なし

3 . その他

該当なし